



神辺中だより

14

令和5年3月
神辺中学校

卒業証書授与式

3月8日、第57回卒業証書授与式を行いました。

1,2年生は同席できなかったものの、御来賓をお招きし、保護者、教職員で、181名の門出をお祝いしました。

国歌斉唱後、卒業生一人一人の名前が呼名され、卒業生の代表として、安倍保葉君に卒業証書が手渡されました。

式辞の一部を掲載させていただきます。

卒業生の皆さん、先ほど代表の安倍君に、卒業証書を授与いたしました。

卒業証書は、中学校の全課程が修了したということになります。さらには、9年間の義務教育が、修了した、という意味でもあり、同時に、社会人への、出発点に立つ、という意味も表しています。

振り返ってみますと、皆さんの中学校生活は、コロナ抜きに語るできません。



3年前の入学式は、真新しい制服に身を包み、これから始まる新たな中学校生活に、期待と不安を抱きながら、出会い坂を上ったことでしょう。しかし、そこには、出会えるはずの2・3年生が同席できず、今までとは違う入学式でのスタートでした。

さらに、その1週間後、2カ月にわたる、全国一斉臨時休校という、前代未聞の出来事に、どう過ごせばよいのか、コロナ対策や、これからの学校生活に、不安を感じる日々を、過ごさなければならなくなりました。

学校が再開されてからも、マスクの着用をはじめ、楽しいはずの、友達との会話のしかたに苦慮したり、校外の行事や大会などが、次々に延期や中止となってしまいました。

2年生になっても、みんなで一緒に合唱ができなかったり、道具の消毒や、給食も黙って食べなければならなかったり、距離を保っての学習活動や部活動など、活動内容が制限されました。

再び状況が悪化した、2年生の9月には、分散登校となり、楽しみにしていた修学旅行が延期になるなど、多くの面で、これまであたりまえであった日常が、非日常となり、皆さんには、本当に不自由で、つらい思いをさせてしまったと思っています。



このように、生活を一変させなければならない3年間でしたが、悪い事ばかりではなく、一気に物事が進み始めた事もあります。

その象徴が、1人1台のタブレットの活用でした。これにより、授業形態や学習の仕方、集会や表彰の持ち方、教室にいなくても授業に参加できることなどは、とても便利で、今後、コロナが終息しても、コロナ前には戻らないものもあると思います。

さらに、コロナの影響で変わり始めたと思うことは、「どうすればできるか」という考え方に変わってきたことだと思います。

「できない」と、あきらめてしまうのではなく、「何ができるか どうすればできるか」という、まさに、正解のない問いに対して、前向きに物ごとをとらえることに、とても大切な意味があると感じています。

体育大会や文化部の展示、吹奏楽部のコンサートを始め、部活動の練習、バラ園などのボランティア活動など、本当によく頑張ったと思います。特に体育大会では、団長を中心に3年生がリーダーシップをとり、下級生をまとめる姿や、その準備として、仲間と意見を交わし、悩み、時にはぶつかったこともあったでしょう。「どうしたらできるか 何ができるか」という事を常にベースに持ちながら、よりよい答えを見つけ、実践してきたのです。

苦勞したら、苦勞した分だけ、やり遂げたときの、

充実感や達成感は、何物にも代えられない、大きな財産であり、思い出になったことでしょう。

この逆境の中、皆さんは、頑張りぬいたのです。自信を持って、神辺中学校で学んだことを活かし、新たな世界で、新たな挑戦をして欲しいと思っています。

そんな、皆さんの旅立ちにあたり、私から2つお願いをさせていただきます。

1つ目は、「夢をあきらめないで欲しい」ということです。

今、社会は、大きな変化が起きています。

正解のない時代ともいわれています。だからこそ、自分の意志や目標、夢をあきらめないで欲しいのです。そのためには、自から進んで行動してください。よく言われる「主体性」、が問われる時代です。まだ、夢がもててない人は、自分から情報を掴みにいき、少しずつでも、それを、鮮明にしてもらいたいと思います。今は、情報があふれている時代です。待っているだけでは、必要な情報は得られません。そこにも「主体性」が問われます。

何度も言いますが、正解や答えのない時代だからこそ、「夢」をあきらめないで欲しいのです。

自分を信じ、挑戦し続け、よりよい生き方ができるよう、切に願っています。



2つ目です。

その夢をあきらめないために、「命を大切にしてください」という事です。

皆さんの中にも、記憶にある人もいるかもしれませんが、12年前の3月11日は、東日本大震災がありました。多くの方々がその犠牲となりました。

また、世界に目を向けると、1年以上にわたる、ウクライナとロシアの戦争を、毎日のようにニュースや新聞で目にしています。

今もなお、世界の戦争や紛争は、50以上あると言われています。

災害は人の力で防げない面もありますが、戦争は人が起こすことです。違いを認め合うことで、防げるのではないかと、思っています。

病気や事故にも、気をつけてもらいたいと思います。

決して自ら、命を落とすことのないように、自分の命も、人の命も、とにかく大切にしたいと思います。

もし、この先、困ることがあったら、いつでも神辺中学校に来て、相談してください。

最後になりますが、神辺中学校の先輩として、卒業生の皆さんに、私の好きな言葉を送りたいと思います。

心が変われば 態度が変わる
態度が変われば 行動が変わる
行動が変われば 習慣が変わる
習慣が変われば 人格が変わる
人格が変われば 運命が変わる
運命が変われば 人生が変わる

本日、ご臨席賜りました、御来賓の皆様、保護者の皆様、そして、卒業生の皆さんの、今後の益々のご健勝と、ご活躍をお祈り申し上げます、式辞いたします。

2023年 令和5年 3月8日

福山市立神辺中学校 校長 菅田耕治



福山学校元気大賞「あなたが素晴らしい」部門

今年もたくさんの方が来校され、多くの方とお話をさせていただく機会を頂きました。

生徒の印象をよく言われた内容は

「よく挨拶するようになった」

校内だけでなく、登下校中の生徒が「最近よく挨拶しますよ」と。



また、先日は地域の方から「あんなことができる生徒はすごい！」と学校と教委育委員会へ報告してくださった方がいらっしゃいました。

概要は、トラックからの落下物が交差点に散乱したのを見つけた、3人の男子生徒が、後続車に気をつけながら片づけていたことに、大変感銘を受けられ、そのことを報告してくださったようです。一方で、

「自転車が道幅いっぱい危ない。どういう指導をしているのか」「注意を促す声を掛けたら文句を言い返された」

今年はこの類の苦情は多く、度々学校でも指導しているものです。

「ヘルメットをかぶっている生徒が増えた」という声も聴くのですが、まだまだのようです。

いずれも、「〇〇君が」とか「△△さんが」ではなく「神中の生徒が…」とひとくくりにされる

ことは、誰かわからないのですから当然のことだと思いますし、そういうものだとも思います。

だからというわけではありませんし、自分一人ではなかなか変えられるものではないかもしれませんが、評価のためではなく、たった1人でもよいことはする、いけないことは1人でもやめる、私自身も含めそんな人になって欲しいと感じています。

神辺ライオンズクラブより図書贈呈



神辺中学校図書館に神辺ライオンズクラブの皆さまより、図書の贈呈がありました。様々な種類の図書に囲まれて生徒もうれしそうです。

ありがとうございました。

